

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1490900212
法人名	株式会社 ゆい
事業所名	グループホーム めぐみ
訪問調査日	平成28年11月15日
評価確定日	平成29年2月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
外部評価は20項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
[次ステップに向けて期待したい内容]  
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成28年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900212	事業の開始年月日	平成22年8月1日	
		指定年月日	平成22年8月1日	
法人名	株式会社 ゆい			
事業所名	グループホームめぐみ			
所在地	( 2 2 3 - 0 0 6 5 ) 神奈川県横浜市高田東3-33-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成28年9月1日	評価結果 市町村受理日	平成29年3月10日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業理念にも掲げている。『その人らしく生きる』を大切に、ご利用者様一人ひとりの生き方を尊重するため、現在の生活状況だけでなくその生活の営みの歴史、その人ならではの姿を多面的に理解し支援ができるように心掛けています。また、職員間・協力機関と日々情報を共有し、ご利用者様の安心安全に努めています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成28年11月15日	評価機関 評価決定日	平成29年2月28日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①グループホームめぐみは株式会社ゆいの経営です。この会社は居宅介護支援・訪問介護・福祉用具貸与・販売・住宅改修・介護タクシー・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護等を「その人らしく生きる為その一瞬を大切にし、どのようにすれば自分らしく生きられるか」を常に模索し一瞬一瞬に喜びを感じられるよう努力しています。と方針に掲げ「地域との関わり」を大切にしながら、今を輝かしく大切に過ごすことができるよう努めています。  
この事業所は東急東横線綱島駅から東急バスにて「高田小学校入り口」下車、徒歩2分程の木造2階建の1階にはデイサービスが併設された2階部分がグループホームになっています。

②事業所の理念は「その人らしく生きる」です。利用者1人ひとりのありのままを受け入れ、生活歴を理解し、日々笑顔で楽しく過ごしていただけるように全職員が温かい心で、1人ひとりの利用者 と接する時間を大切にいたしたケアを実践しています。また、事業所では自立支援に注力して、掃除・洗濯など出来る事を少人数のグループにしてやってもらい、達成感を感謝の言葉で感じていただくようにすることで「その人らしさ」を大切にいたした支援を心がけています。

③地域との付き合いでは地域住民の方と散歩時に挨拶を交わしたり、町内会主催の防災訓練・祭り・防犯パトロール・運動会等に参加することで連携を深めています。また、町内も高齢化が進み地域包括支援センターからの紹介があったり、地域の方々から注目が寄せられています。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム めぐみ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が身分証を携帯し、その裏面には企業理念を掲載する事で常日頃から意識付けを行っている。「その人らしく生きる」念頭に住み慣れた環境での生活を継続できるように援助している。	「その人らしく生きる～その一瞬を大切に～」とした理念を身分証明書裏面に印刷して職員全員が常に携帯して意識付けています。また、理念に沿った年間取り組み目標（事業計画）を作り、管理者をはじめ全職員で理解共有して、目標に向けて生き甲斐の感じられる日々を計画に沿って実践されています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会自治会に参加している。日常の地域住民との挨拶を心掛け、町内行事に積極的に参加している。 (町内防犯パトロール、運動会、防災訓練など) 子ども110番の家にとろくした。	開所時には施設の活動や認知症についての質問等も受け、認知症の理解を深めていただく為、地域に向けての講座等も開催していました。開所後は自治会に加入し、自治会主催の運動会等に入居者と共に参加したり、日頃から挨拶を交わす等して地域との交流を深めています。また、こども110番の家登録や定期消防避難訓練等にも参加しています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所時、地域住民に対して認知症の理解を深めるための講座を開いた。 施設開設記念日に内覧を開き理解を府深めて頂いた。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、民生委員・町内会・地域包括支援センター・協力医療医師・看護師・薬剤師などに参加して頂き運営委員会を開き、利用者様の状況説明・取り組みなどを報告し、サービス向上に取り組んでいる。	2ヶ月に1回自治会役員、民生委員、町内会 地域包括支援センター職員、協力医医師、看護師、薬剤師、家族の参加で運営推進会議が行われています。会議では運営状況と今後の運営に関する思いや行事予定などを報告し、参加者から支援の方法等についての質問、意見、助言、提案等もいただきながら、サービス向上に取り組んでいます。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所地区担当職員と入居状況などの情報交換を行っている。 グループホーム連絡会に出席し情報を得ている。	区役所職員とは入居状況等の情報交換とその他、生保関係等要件に応じて不明点・疑問点を聞いたり相談をして支援に活かし、事業所からは施設の様子や課題等についても伝えていきます。また、地区グループホーム連絡会に出席した際に情報交換なども行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについての研修に参加し、どのような行為が拘束に該当するのかを日々勉強している。常に安全面についてミーティングを行い職員同士意見を交わしている。日中玄関の施錠はしていない。	身体拘束・虐待禁止についてのマニュアルや事例に基づいた職員への研修も行い、日頃の言葉かけを始め、禁止行為とそのデメリットを共有認識して常に安全面についてミーティングを行い、身体拘束の廃止に繋げています。玄関については原則開錠とし、徘徊行動などの兆しが見えたら職員の見守りで対応しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしないケアについての研修に参加をし、他の職員にも情報を周知している。日頃のミーティングでも職員同士で意見の交換をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	仕組みについて社内の研修でも議題に上げ、知識を共有している。 成年後見制度を利用する利用者がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者様、ご家族と共に面談を行い理解・納得して頂いた上で契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「面会ノート」を作成し、ご家族には自由に意見を記入して頂いている。同時に利用者様の近況を報告し、ご家族との会話を大切にしている。	利用契約時に重要事項9運営規定12条に記された苦情相談窓口と、その対応の説明を行っています。家族には面会時や電話で、管理者をはじめ職員から日常的な利用者の生活状況の報告をしてコミュニケーションを密にし、意見等も伺うようにしています。また、運営推進会議時にも意見、苦情等も伺い、記録に残して検討した後に、回答と共に運営に反映するように努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員同士意見の言いやすい環境づくりを心掛け、「改善ノート」を作成し職員に意見や提案を書き出してもらうようにしている。また、その意見を元にスタッフミーティングを行い話し合いを重ねている。	事業所では職員の日々の観察に基づく気づきや意見提案を「改善ノート」に記入して自由に表出ができる様にしています。本社でも職員に日頃の職場満足度などを尋ねる「アンケート」を実施している他、代表者からも、職員と面談を行う機会を設けて意見の取集も行い、職員が向上心を持って働けるよう環境作りに努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力、実績、勤務状況を把握し定期的に面談を行っている。代表者が職員の意見を聞き、それを受け止め、職員がさらなる向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回社内内で勉強会、事業所内でミーティングを行っている。研修に参加した職員にはミーティングで報告し、スタッフ間で学習した内容を共有できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所と交換研修を行っている。（9月に実施）参加した職員には研修内容をミーティングで発表してもらい、情報共有している。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご本人様と話す機会を設け関係づくりに努めている。安心して頂けるよう、声のトーンや表情にも注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族ご本人様がどのような事に悩んでいるのか、出てきた思いを無駄にせず寄り添うように努めている。また、他専門職とも連携し対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族ご本人様と他サービスも含めた対応について検討している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの個性を理解し、自分らしく暮らすお手伝いができるよう意識している。本人が好きな事や出来ることは率先して行っていただいている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にご本人の生活を支えていけるようお互いに協力している。面会に来られた際は、近況をお伝えし状況を共有している。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に暮らしている利用者様が多く、お子さん、ご兄弟の他、可愛がっていた犬も飼い主に連れられ面会に来ることがある。また、なじみの家具を使用いただき落ち着く環境づくりを心掛けている。	入居者が大切にして来た馴染みの人との関係を損ねない様に、気兼ねなく訪問頂けるような雰囲気作りを心がけています。もともと近所に住んでいた方が多く、お子さん、兄弟や飼っていた犬と共に訪ねてくることもあります。その他、利用者の嘗ての楽しかった出来事も日々の会話から「今の思いを知って」出来るだけ思に沿えるよう、家族の協力も得ながら思いが実現できるよう支援に努めています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合わない方もいるが、職員が間に入りレクレーションやお手伝いを協力して行って頂くことで良い関係が保てるよう支援している。	f		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族と思い出話に花を咲かせるような関係性を大切にしている。利用終了後も手紙や年賀状を送って下さるご家族もいる。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	どのようにすれば穏やかに暮らしていただけるのかを、職員同士で話し合っている。利用者様の希望に沿った介護計画が作成できるよう努力している。		思いを伝える事が出来る人と出来ない人がいますが、本人の生活歴などを参考にして今の思いを知るように努めています。また、会話や日頃の仕草や表情からの汲み取りに加え、家族等からの情報も参考にして、本人本位に検討しています。ただし「出来る事、出来ない事」も説明して理解していただくように努め、モニタリングで思いに沿っているか確認しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中から、利用者様の人生を知ろうと努力している。ご家族から直接うかがうこともある。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方・健康状態等毎日記録を行っている。			



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の全体会議で意見を出し合い介護計画を立てている。また、作成した計画書はいつでも職員が確認することが出来るように、業務日誌と共にファイリングしている。	利用当初は先ず計画を立てて様子を見て、変化のある場合は都度の見直しを基準としています。毎月の全体会議で日々の観察に基いた意見を述べ合っ計画作成者を中心に家族の要望等も聞いて、その方に残された能力に見合った計画を作成しています。出来た介護計画は、本人と家族に確認を頂いてプランとして実施しています。また、計画書と照らし合わせたモニタリングを行い、ズレが生じないように努めています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、経過記録、バイタル表、排便状況、食事量、睡眠状況等を記録し職員全体が把握できるようにしている。毎日のカンファレンスでも情報共有、交換をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様を一番に考え、臨機応変に対応できるよう心がけている。判断できない場合は職員、家族と話し合い支援するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会回覧板を活用し情報を収集している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、その他ご利用者様に異変があった時にはかけつけ対応してもらっている。	提携している「日横クリニック・高田歯科医」からは、月2回の往診があります。提携医以外の病院にかかる際は家族対応を原則としています。受診については、日常生活情報など必要情報の提供と診療結果の情報共有を行っています。また、常駐看護師による健康管理で、利用者の医療的管理と適切な医療支援が行われています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に些細な事でも気軽に相談するようにしている。「往診ノート」を活用し職員に情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時、医療機関との連絡はまめに行っている。退院前には直接状態をみに伺っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・ケアマネ・担当医師・看護師で話し合いをしている。ご家族に対し、終末期についての書類を作成し終末期に対する考え方を把握するよう努めている。	重度化した場合の方針については入居契約時に重度化・終末期ケアの指針に基づいて、事業所の出来ること、出来ない事を家族・後見人に説明して同意書を交わしています。医師または看護師が終末期と判断した時点で希望を伺い、家族・ケアマネ・医師・看護師・事業所責任者との話し合い、家族の意向に沿った支援を行っています。事業所では看取り介護の指針を持って体制も整えられており、看取りの実績もあります。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故の発生時、どのように対応するかを担当医や消防署の方に定期的に講習を開いていただいている。緊急時の連絡マニュアルを作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年地域住民、消防署員にも参加していただき避難訓練を行っている。施設内に災害時用の備品、備蓄を用意している。	運営規定16条に利用者の災害防止に努め非常災害に対して必要な設備を設け、災害時の通報及び連絡体制を整備し、災害の予防措置並びに避難訓練を年2回以上行う。と記されてホームでは毎年所轄消防署の指導の下、避難誘導路・緊急連絡網の整備と共に地域住民と共に避難訓練を実施しています。非常用備蓄は食料・水・乾電池・オムツなども確保して、設備ではスプリンクラー、火災自動通報装置、法人内防災ネットワーク無線等も設置され災害対策を講じています。また、地域との協力体制も構築しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の性格、個性に合わせ声掛けの仕方に気を付けている。「こうすればよかった」等スタッフ同士意見を出し合っている。個人情報の取り扱いや、着替え、トイレ時のプライバシーにも注意を払っている。	言葉遣いの乱れは不適切支援に繋がる事を職員で共有し人格を尊重して、入居者の身になり誇りやプライバシーを損ねる事の無い利用者の性格、個性に合わせた言葉遣いと態度に心がけ、着替えやトイレ誘導時にも他の人に気づかれないよう配慮しています。呼称は「さん」付けを基本にしていますが、時には親しみをもった本人の希望も取り入れて呼ぶこともあります。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいおやつや着替える洋服、どのように過ごしたたいかなど、日常生活の中で利用者様が自分で選択できるような声かけ心掛けている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の利用者様の状態や思いに合わせて柔軟な支援ができるよう努力している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用したり、美容院へ出かけり方もいる。着替える洋服など、ご自身でコーディネートを考えて頂くこともある。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりの用意や片付け（食器洗い）を手伝っていただいている。定期的にレストランに外出に出かけたり、カレーパーティーを行い食事を楽しんでもらっている。	時には趣を変えて外出に出かけたり、カレーパーティーを行ったりし、日常の食事メニューでは好みのリクエストなども取り入れ、楽しんで食事が摂れる様に工夫しています。出来る人には食器洗いや食卓拭き、下膳、片付けなどの手伝いに加えて「週1回の買い出し」時には同行していただき、役割をこなす事で達成感やADLの維持に繋がっています。クリスマス等、季節の行事に合わせた食事（栗ご飯・すいとん・おはぎ）等も取り入れられ、誕生日には祝いのケーキも食べていただいています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を日々記録し、食形態を利用者様の状態に合わせて工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っていただいている。一人ひとりの航空状態に合わせて磨き方、支援の仕方を日々考えている。歯科往診時には口腔ケアの方法を医師から指導・助言を頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄票を利用して一人ひとりの排泄リズムを把握し、できるだけトイレで排泄が出来るよう促している。	水分摂取量の記録観察と排泄チェック表を利用し、その人に合った声かけ・見守りで支援を行い、定期的なトイレ誘導を行っています。体調の変化や入院などでリハパンやオムツになった入居者でも、トイレでの排泄を支援しながら出切るだけ早く外せる様に支援しています。失敗した際は、他の人の目に触れない配慮の下に下着交換や浴室へ誘導しています。夜間は睡眠を妨げないことを前提に声替えをして経済的、精神、衛生的にも負担がかかるオムツ使用を無くす支援に注力しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し看護師に報告している。水分不足にも気を付け、ゼリーにして提供するなど形態を工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は曜日で振り分けているものの、「今日は〇〇曜日だからお風呂の日よ」と自ら着替えを用意する人もいらっしゃる生活リズムに馴染んでいる。季節に合わせた入浴（ゆず湯・菖蒲湯等）や入浴剤を楽しんでいただいている。	曜日・時間などは決めています。入浴は清潔保持のみならず、打ち身・あざ・湿疹などの発見がある事を踏まえて、決して無理強いの無いアプローチを心がけてバイタルチェックと共に入浴を促しています。現在は、自ら着替えを用意して、入浴を生活リズムとして馴染まれている方が多くいます。季節にはゆず湯、菖蒲湯なども取り入れ一緒に歌を歌ったり楽しめるように工夫しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズム、体調に合わせて休息していただいている。居室で昼寝をする方もいれば、デイルームのソファでのんびり過ごす方もいる。その日の天候によって、室温、座布団、寝具の衛生面に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を作成し服薬時には声を出しもう一人の職員と確認しあうなど安全に努めている。飲みやすいようにゼリーを使うなどの工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合ったお手伝いなど声かけを行い職員と共に取り組んでいる。季節に合わせた作品づくりが定番になっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーション委員が中心となり、外出の計画を立てている。施設の周りを散歩したり、毎週行う買い物出しに利用者も一緒に行っていただいている。	日々の外出希望には職員ができるだけ対応し、天気の良い日には近くの散歩コースに出かけたり買い物に行ったりしています。その他、季節に合わせた企画立案で外出の機会を作る様にして、天満宮初詣・花見・ズーラシア動物園見学などの他、町内会の案内によるレク等で外出支援を行っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本金庫預かっている。欲しいものをメモに起こし、スタッフと共に買い物に出ることもある。使用した金額はその都度出納長に記入し確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも伝が出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や明るさには気を使っている他、日常で季節を感じられるように、フロアには季節ごとの貼り絵や作品を飾っている。	室内は行き届いた清掃がなされ騒音や異臭も無く適度な湿度・温度管理が職員によって行われ、リビングには、椅子、テーブルやソファが置かれ、食事準備風景等が見られ、季節の花等も生けられて安らぎと寛が感じられます。壁面には皆で作成した季節感のある装飾、行事時の写真等を全体のバランスを考慮して飾り居心地よく過ごせるよう工夫されています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に休めるようにソファを設け、座ってゆっくりお話ができるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みのあり家具をもって来ていただいている。また家族の写真など居室に飾っている方もいる。それぞれ居室担当を職員で割り振り、整理整頓を行っている。	使い慣れた家具などを持ち込んで頂く事をお勧めしています。馴染みの雰囲気や自宅と同様な感じを得られる様に、今まで大切にしてきた、筆筒、位牌、思い出の写真等が持ち込まれ、馴染んだ生活拠点が演出されています。居室毎に職員が割り振られ整理整頓を手伝っています。部屋にはエアコン・防災カーテン、整理棚が備えられていて、各人好みの設えて居心地よく過ごせる支援が行われています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には名札を掛け、自室だとわかるようにしている。トイレ内の棚に替えのバット類の替えを用意し、ご自身で交換を行う方もいる。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム めぐみ

作成日 2016年11月15日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議の場を有効に活用する	運営推進会議の場を更に充実させ、サービス向上に繋げる。	運営状況や行事について報告に留めず、それぞれの立場から積極的に意見交換を行う。	1年
2	48	利用者様に役割・楽しみがあると感じていただきたい	各々に合った日々の楽しみ方やお手伝いを職員が一緒になり見つけ、役割を感じていただく。	職員同士アイデアを出し合い手作業やレクを実践していただく。その過程で個別に合わせた支援を行う。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。